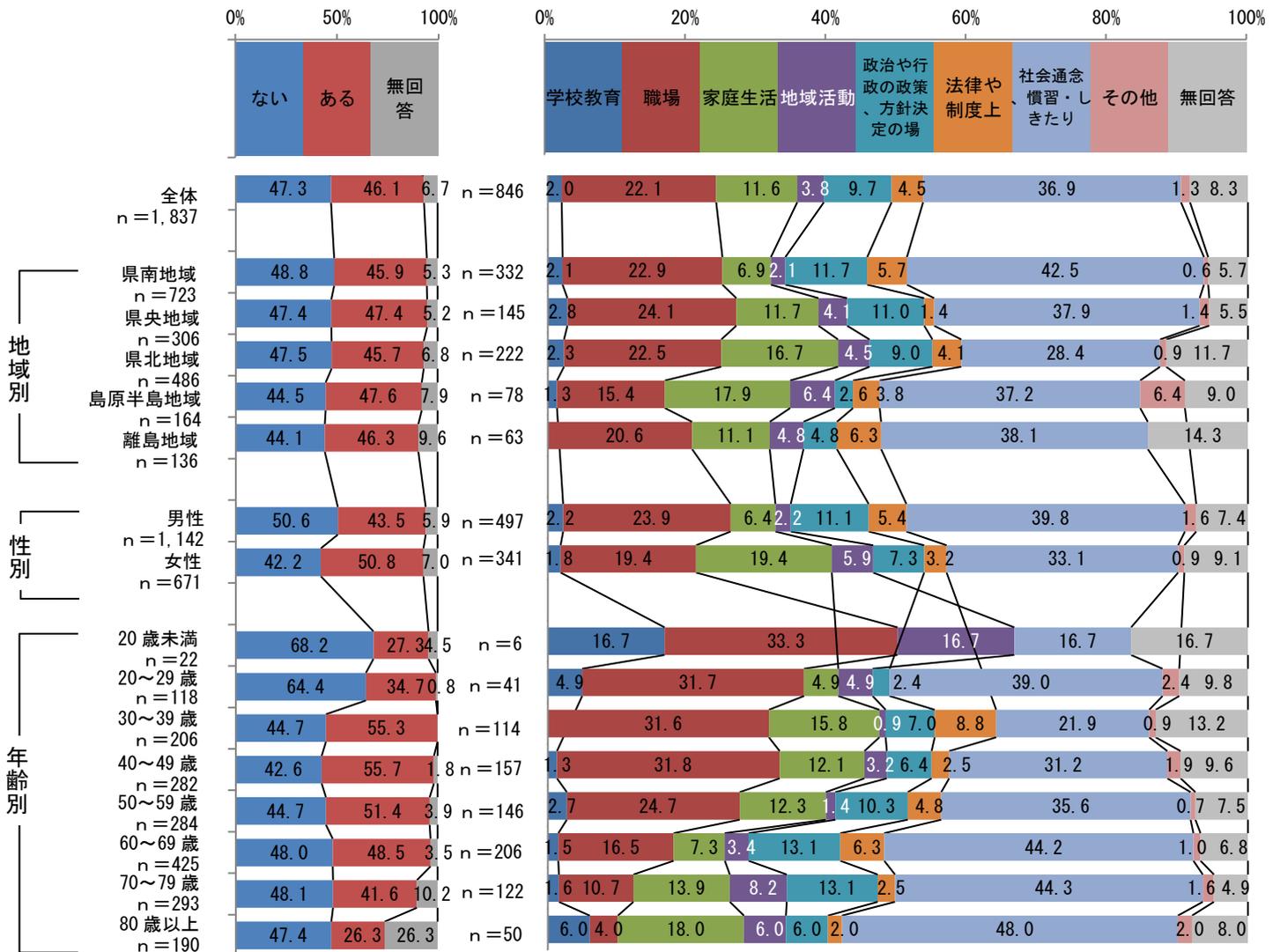


問18 あなたは、普段の生活の中で、男女不平等であると感じることがありますか。また、「ある」と回答した方はどの場面で一番不平等だと感じますか。(〇は1つずつ)

【調査結果 (ポイント)】

男女不平等であると感じることが「ある」は約5割
一番不平等だと感じる場面は「社会通念、慣習・しきたり」がトップ



【全体】

男女不平等であると感じることが「ある」と「ない」では、やや「ない」の回答が多いが、ほぼ同じ割合となっている。

不平等だと感じる場面は「社会通念、慣習・しきたり」が36.9%で最も多く、次いで「職場」「家庭生活」が続いている。

【地域別】

地域別での傾向の相違は見られないが、「ある」の回答は島原半島地域が47.6%で最も多く、次いで県央地区・離島地域と続いている。

不平等だと感じる場面は、「社会通念、慣習・しきたり」で県南地域・県央地域・島原半島地域・離島地域、「職場」は県南地域・県央地域・県北地域、「家庭生活」で県央地域・県北地域・島原半島地域が全体平均を上回っている。

〔性別〕

性別では、「ある」の回答が「女性」が50.8%、「男性」が43.5%と7.3ポイント女性が高くなっている。

不平等だと感じる場面は、「社会通念、慣習・しきたり」「職場」は男性が高く、「家庭生活」は女性が高くなっている。

〔年齢別〕

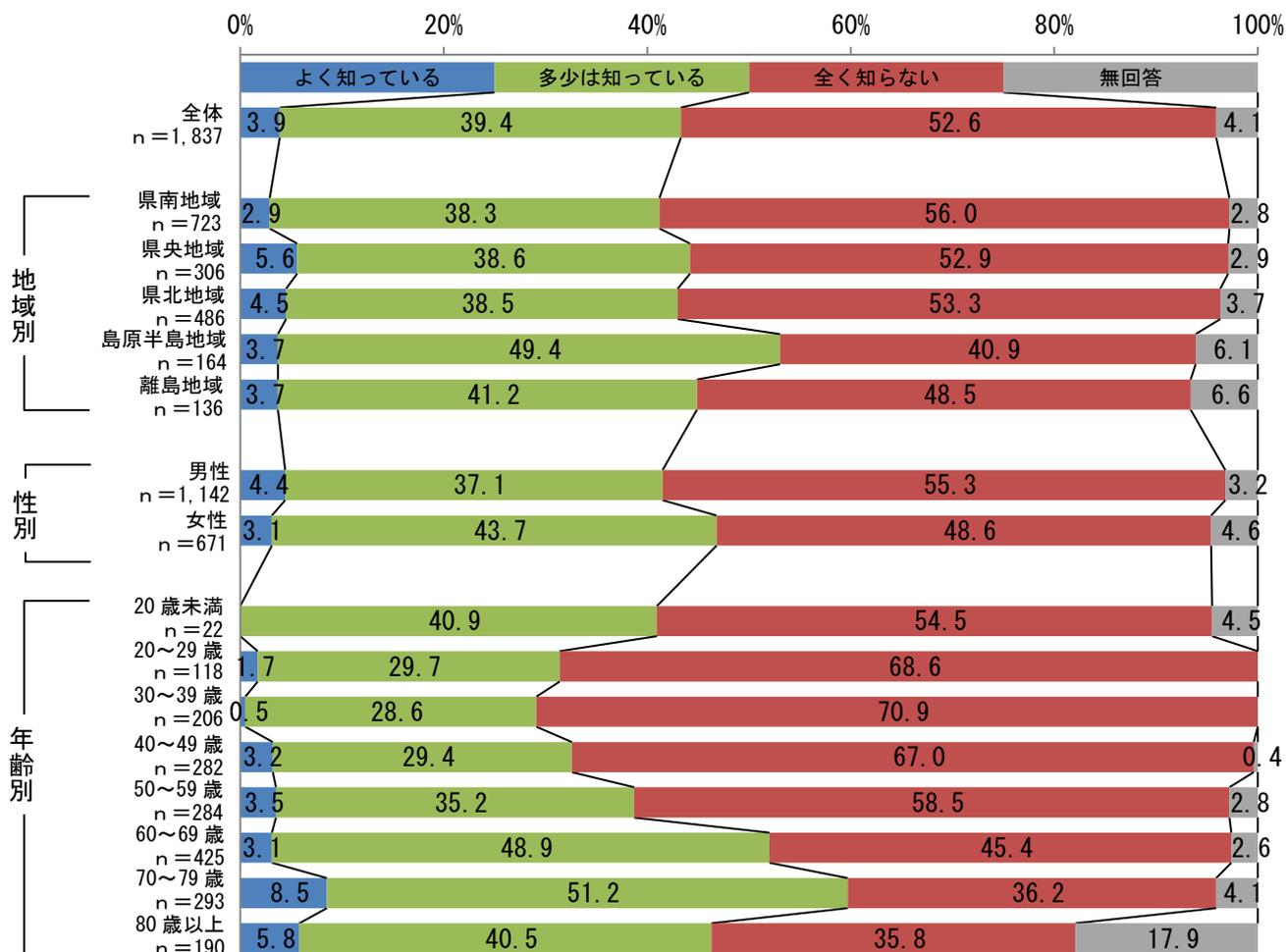
年代により大きな差異が見られ、「ある」の回答と不平等だと感じる場面の「社会通念、慣習・しきたり」の回答は、年齢の上昇とともに高くなる傾向が見られた。

問 19

あなたは、障害のある人に対する差別の禁止等を定めた「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」を知っていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「障害のある人もない人も共に生きる平和な長崎県づくり条例」
条例の認知度は約 4 割



【全体】

条例の認知について、「全く知らない」が最も多く、認知度（「よく知っている」+「多少は知っている（聞いたことはある）」）は43.3%となった。

【地域別】

地域別での全体との傾向の相違は見られず、認知度は島原半島地域が53.1%で最も高く、次いで離島地域・県央地域と続いている。

【性別】

性別でも全体との傾向の相違は見られず、認知度は女性の方が5.3ポイント高くなっている。

【年齢別】

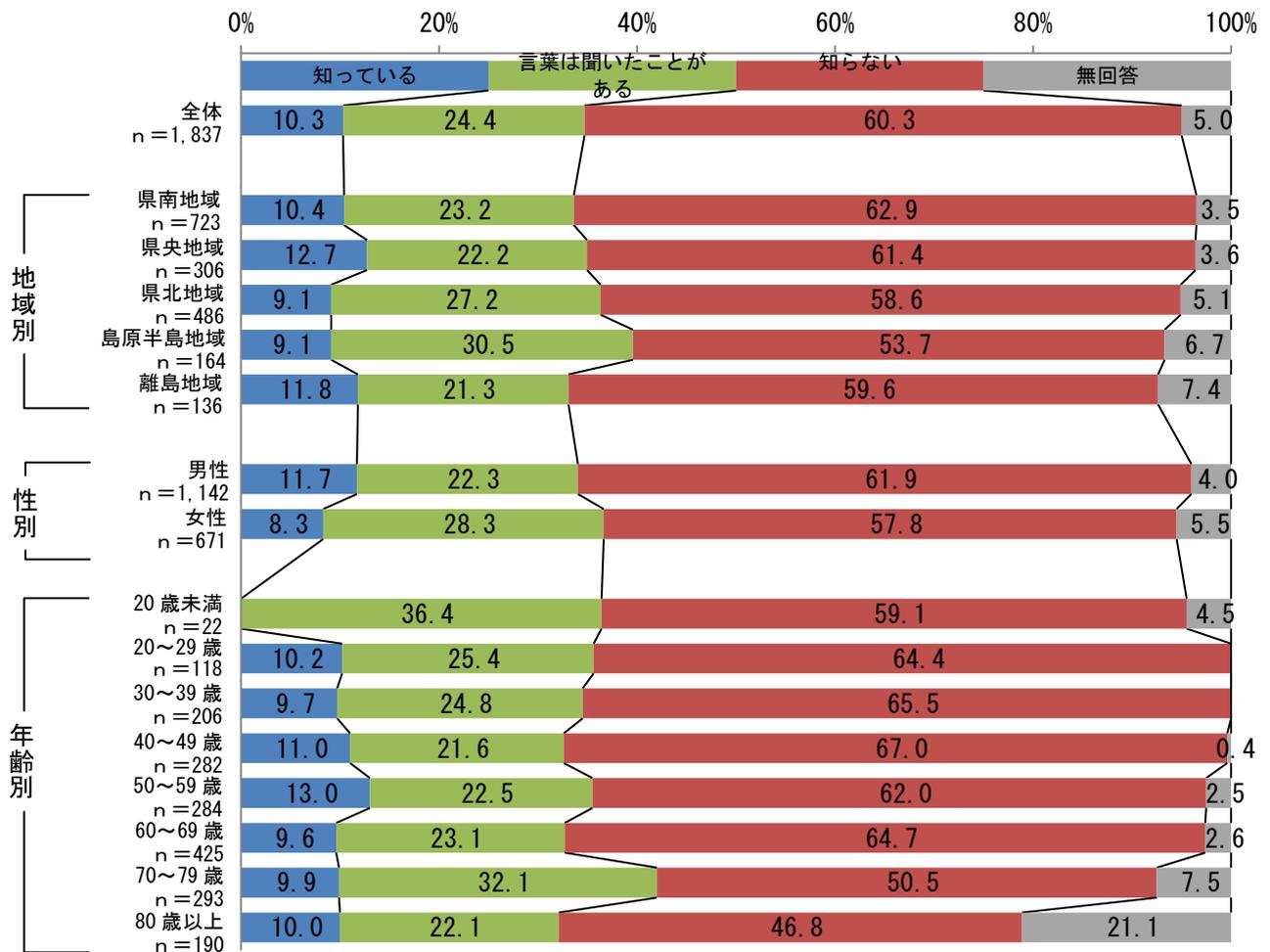
年齢別では、年代の上昇とともに認知度が高くなる傾向が見られ、70歳代が最も認知度が高く59.7%であった。

問 20

障害のある人が障害のない人と同じように生活できるよう、社会や会社などが無理のない範囲で必要な変更や工夫を行うことを「合理的配慮」と言いますが、この条例では、「合理的配慮」を怠ることも差別としています。あなたはこのような「合理的配慮」について知っていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「合理的配慮」の認知度は約3割



〔全体〕

「合理的配慮」について、「合理的配慮については知らない」が60.3%で最も多く、認知度（「合理的配慮の考え方について知っている」+「合理的配慮という言葉は聞いたことがある」）は34.7%であった。

〔地域別〕

地域別での全体との傾向の相違は見られず、認知度は島原半島地域が39.6%で最も高く、次いで県北地域・県央地域と続いている。

〔性別〕

性別でも全体との傾向の相違は見られず、認知度は女性の方が2.6ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

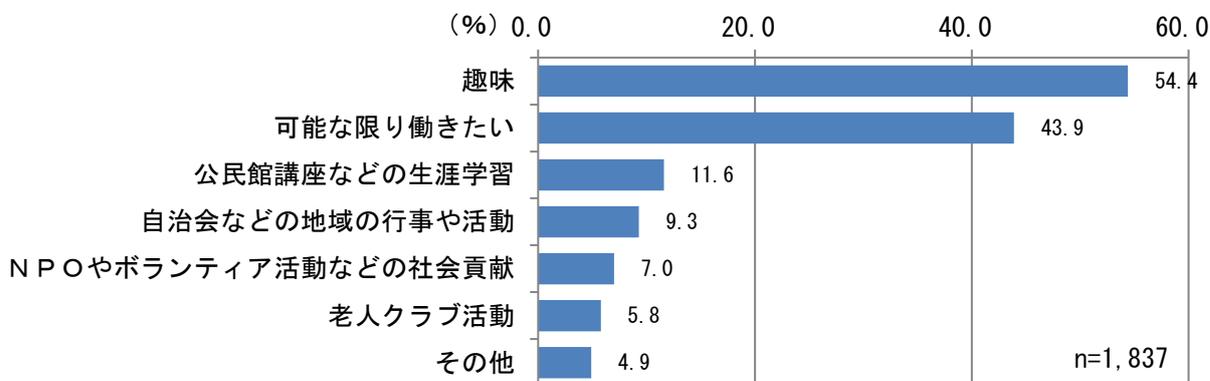
年齢別での認知度は、70歳代が最も認知度が高く42.0%、次いで20歳未満・20歳代となっている。

問 21

あなたが65歳以降の高齢期を迎えたときに（65歳以上の方は現在）行いたいことは何ですか。（〇は2つまで）

【調査結果（ポイント）】

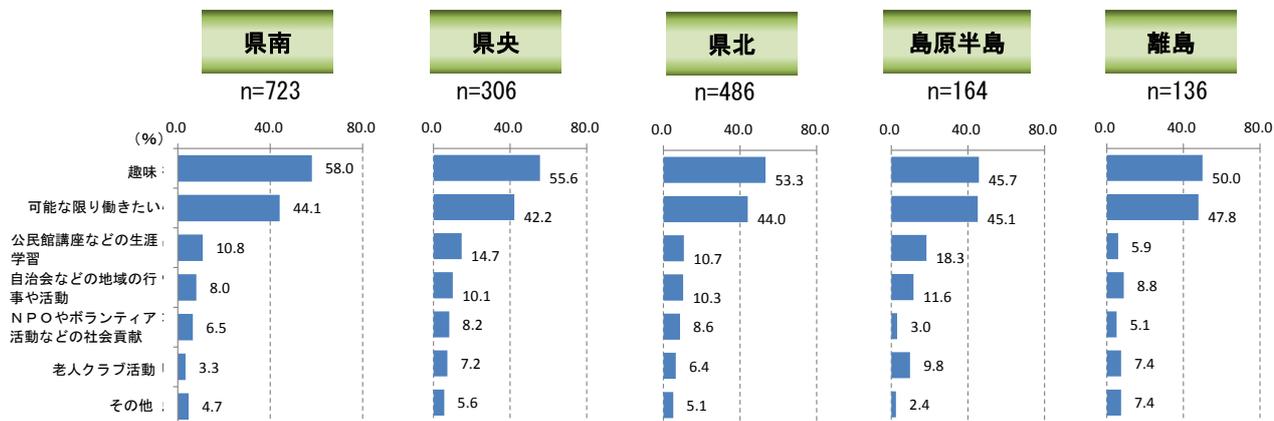
高齢期を迎えたときに行いたいことは、「趣味」が約5割



〔全体〕

高齢期を迎えたときに行いたいことは、「趣味」が54.4%で最も多く、次いで「可能な限り働きたい」「公民館講座などの生涯学習」が続いている。

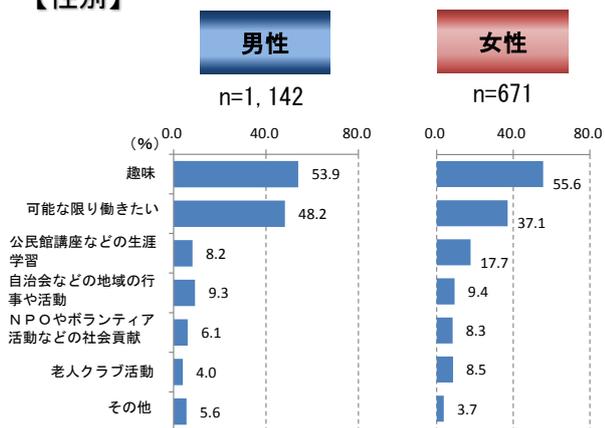
【地域別】



〔地域別〕

上位5項目は地域別での全体との傾向の大きな相違は見られないが、相違は島原半島地域で「NPOやボランティア活動などの社会貢献」に代わり「老人クラブ活動」が5位となり、離島地域で「自治会などの地域の行事や活動」が3位、「老人クラブ活動」が4位に上がっている。

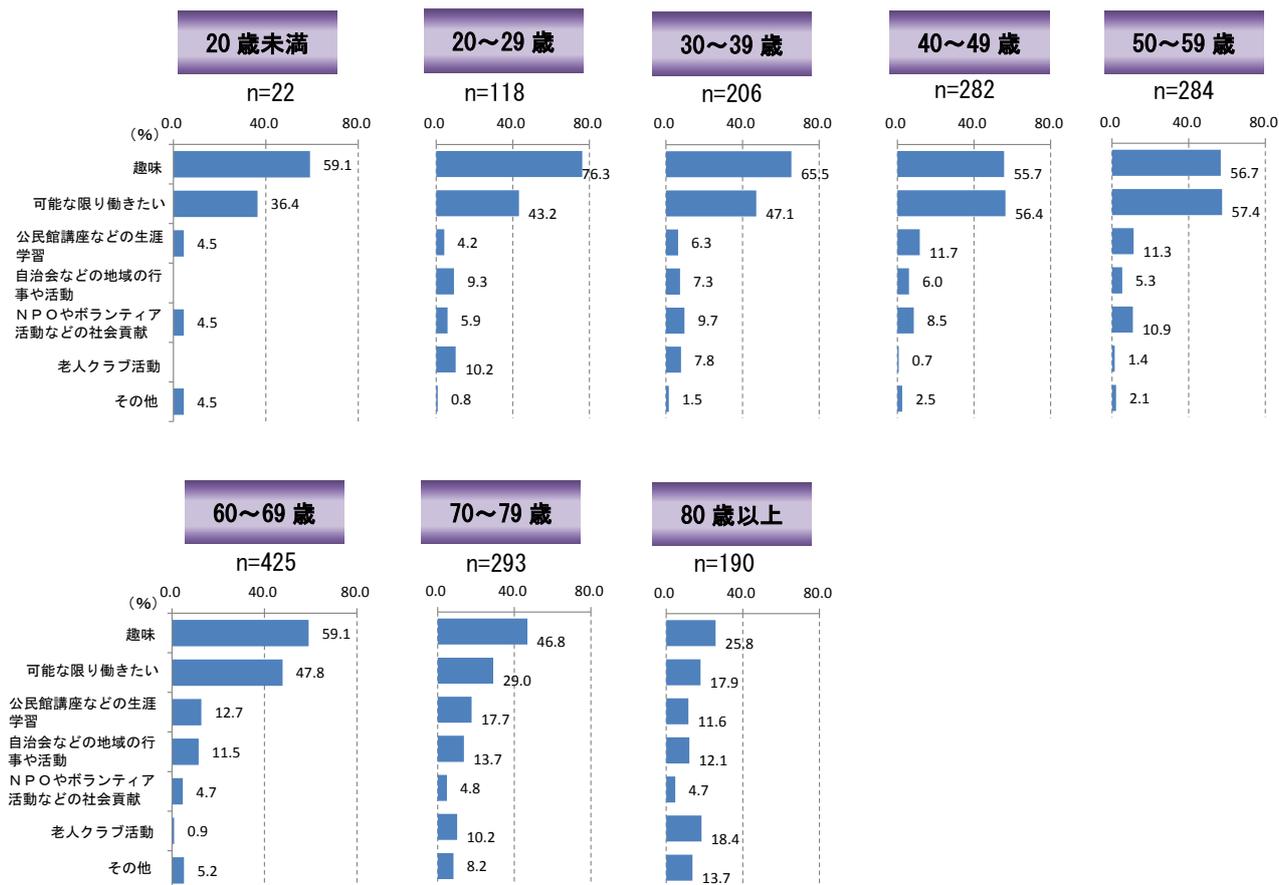
【性別】



〔性別〕

性別でも全体との傾向の相違は見られないが、上位項目でやや差が表れているのは、「可能な限り働きたい」は男性が 11.1 ポイント高い。また、「公民館講座などの生涯学習」で女性が 9.5 ポイント高くなっている。

【年齢別】



〔年齢別〕

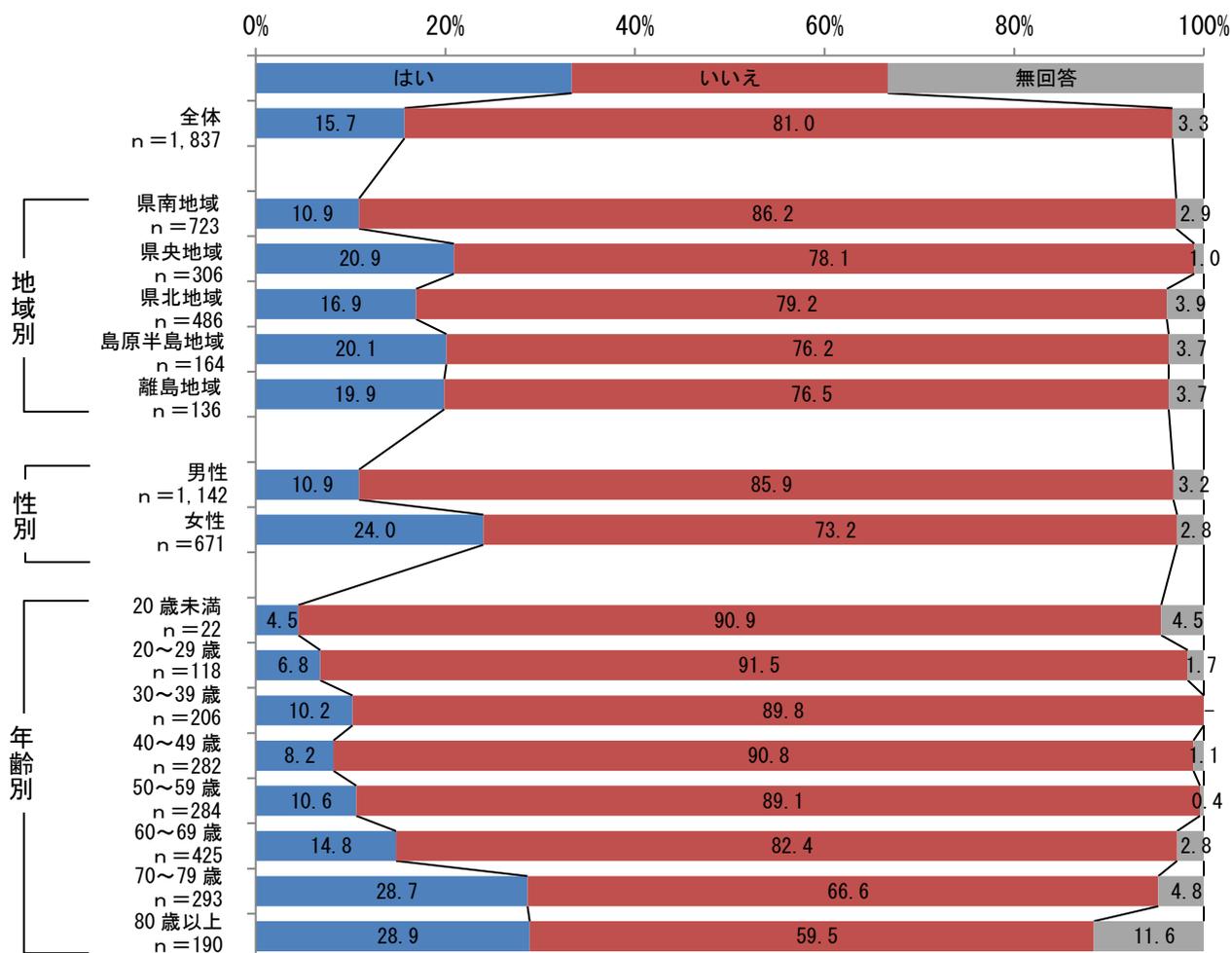
年齢による傾向の差異が見られ、上位3項目での相違点は「公民館講座などの生涯学習」が20歳代・30歳代では6位、80歳以上は「老人クラブ活動」が2位となっている。

問 22

あなたは、この1年間に自己啓発のために公民館講座やサークル活動等に参加するなどの生涯学習に参加したことがありますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

生涯学習への参加率は約 2 割



〔全体〕

生涯学習への参加について、「いいえ」が81.0%となった。

〔地域別〕

地域別での全体との傾向の相違は見られず、参加率が高いのは県央地域が20.9%で最も高く、次いで島原半島地域・離島地域と続いている。

〔性別〕

性別でも全体との傾向の相違は見られず、参加率は女性の方が13.1ポイント高く、男性の2倍超となっている。

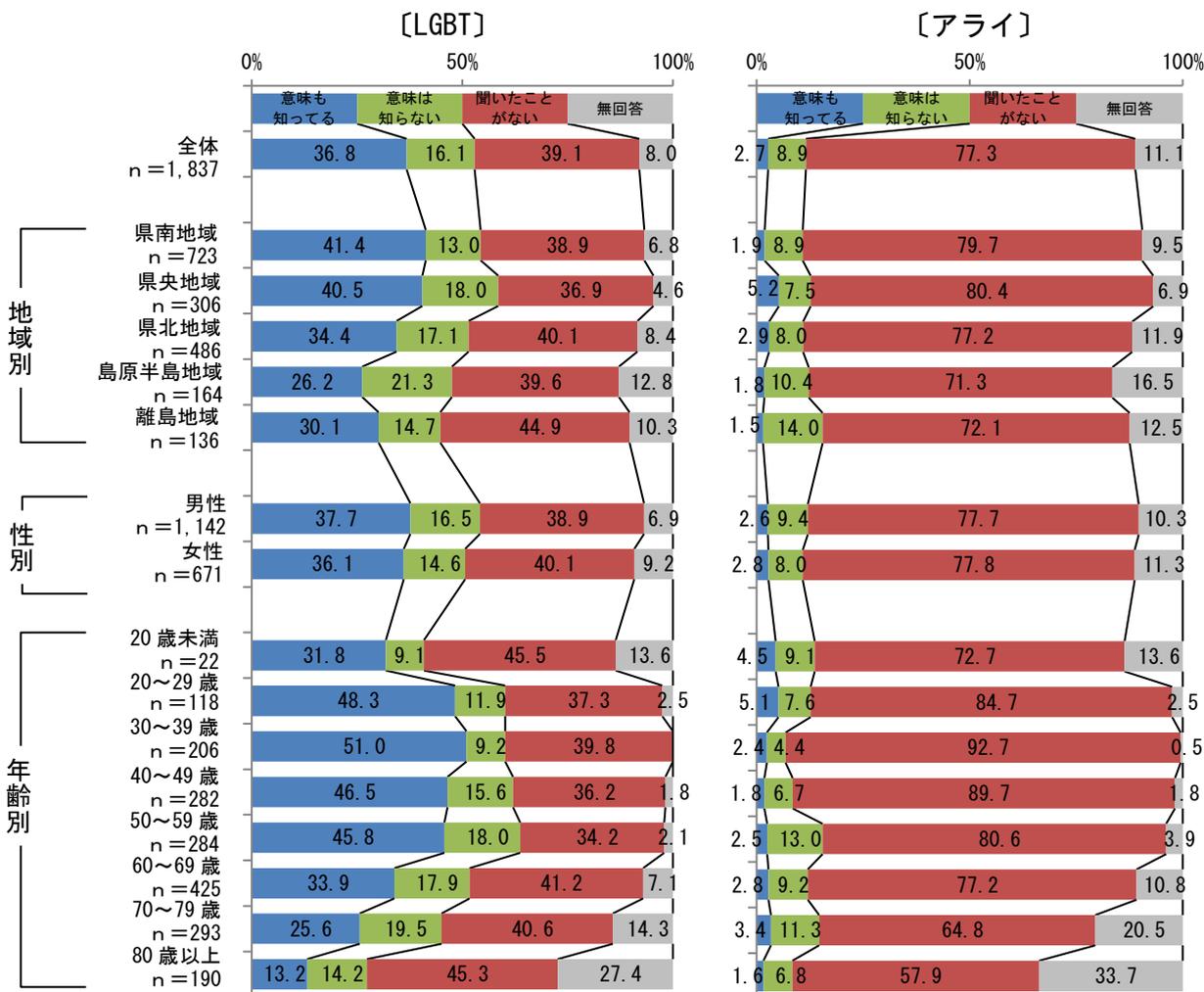
〔年齢別〕

年齢別では、年代の上昇とともに参加率が高くなる傾向が見られ、80歳以上が28.9%と最も高くなっている。

あなたは、性的少数者に関し、次の言葉についてどの程度ご存知ですか。(各〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

「LGBT」の認知度は約5割・「アライ」の認知度は約1割



〔全体〕

「LGBT¹」の認知度（「聞いたことがあり意味も知っている」+「聞いたことはあるが意味は知らない」）は52.9%であった。

また、「アライ²」について、「聞いたことがない」が77.3%で最も多く、認知度（「聞いたことがあり意味も知っている」+「聞いたことはあるが意味は知らない」）は11.6%となっている。

〔地域別〕

地域別での全体との傾向の相違は、「LGBT」の認知で県北地域・島原半島地域・離島地域で「聞いたことがない」が全体傾向を上回っている。認知度は県央地域が58.5%で最も高くなっている。

また、「アライ」の認知に全体との傾向の差は見られず、認知度は離島地域が15.5%で最も高くなっている。

〔性別〕

性別では全体の傾向との大きな相違は見られない。

〔年齢別〕

年齢別での認知度は、「LGBT」は50歳代までは年齢に上昇に伴い高くなるものの、60代以降認知度は下がっており、最も認知度が高いのは50歳代の63.8%となっている。また、「アライ」は差異があり、50歳代が最も認知度が高く、次いで70歳代、20歳未満と続いている。

¹ LGBT…性的少数者を表す言葉の一つであり、レズビアン (L)、ゲイ (G)、バイセクシュアル (B)、心と体の性が一致しないトランスジェンダー (T) の頭文字をとってそう呼ばれている。

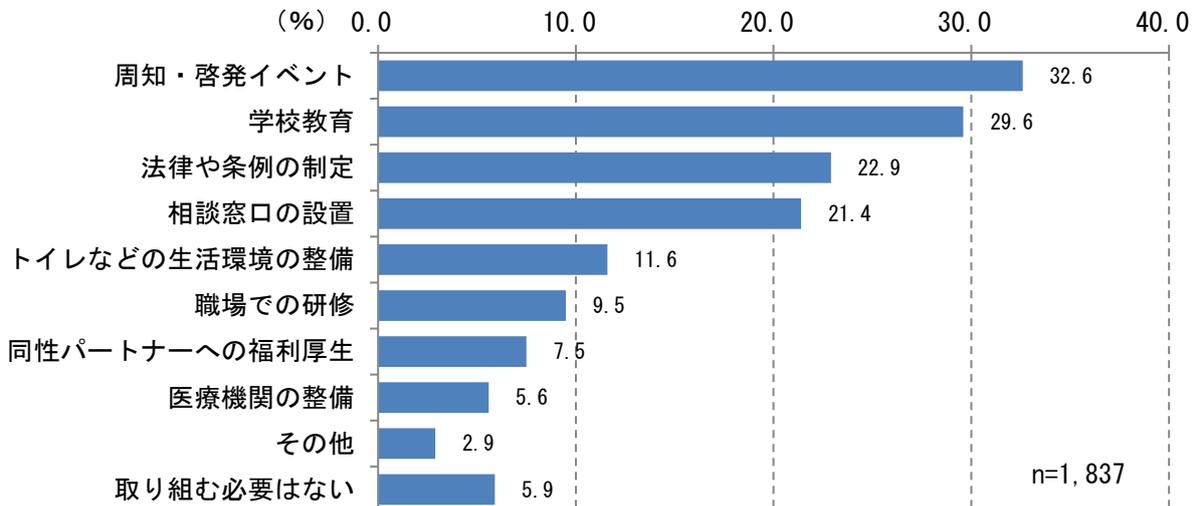
² アライ…LGBTに代表される性的少数者を理解し支援するという考え方やその考えを持つ人のこと。

問 24

あなたは、性的少数者への差別をなくすために大切な取り組みは何だと思いますか。
(〇は2つまで)

【調査結果（ポイント）】

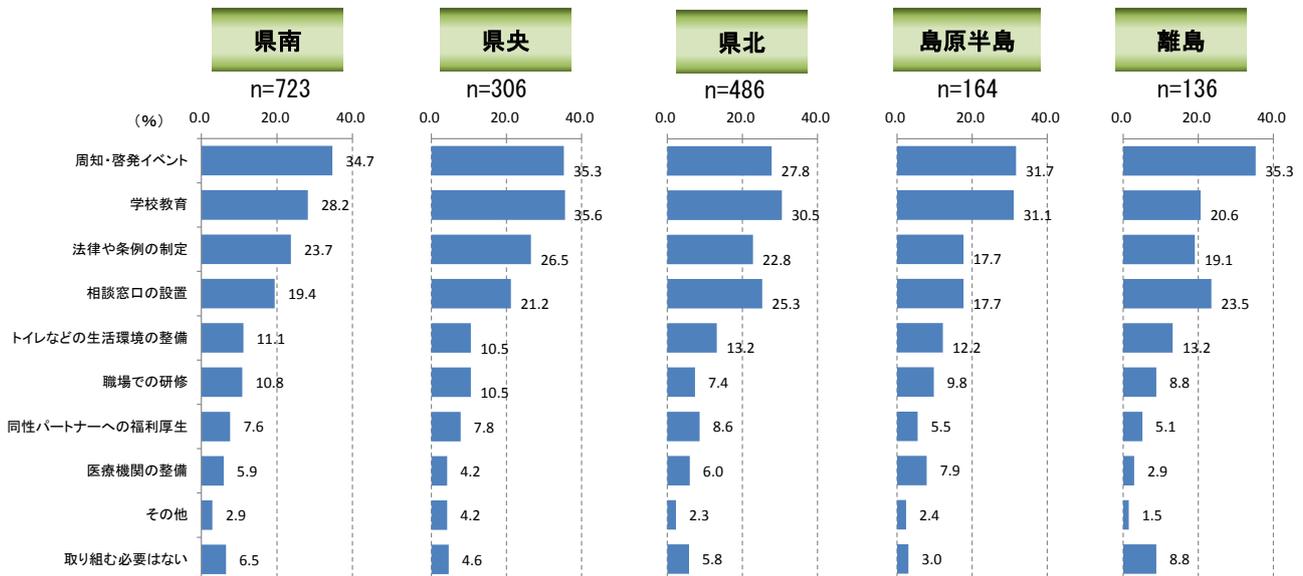
性的少数者への差別をなくす取組は「周知・啓発イベント」がトップ



【全体】

性的少数者への差別をなくす取組は、「周知・啓発イベント」が32.6%で最も多く、次いで「学校教育」「法律や条例の制定」と続いている。

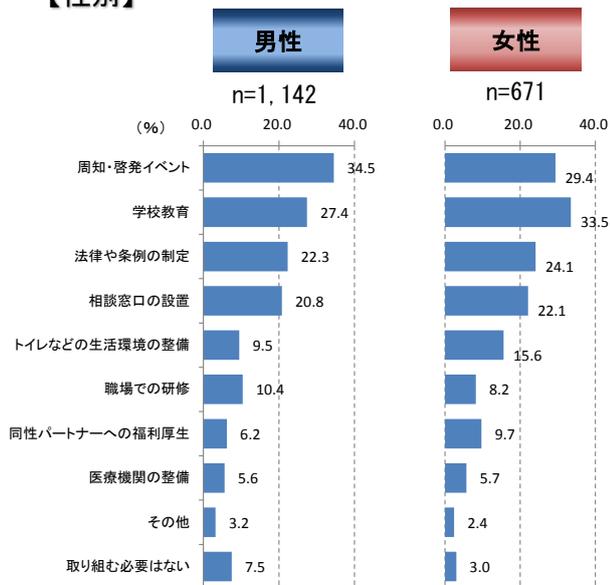
【地域別】



【地域別】

全体傾向の上位5項目と地域別による傾向の相違が見られるのは、県北地域で「学校教育」が1位、「周知・啓発イベント」が2位、「相談窓口の設置」が3位、「法律や条例の制定」が4位と順位が入れ替わり、離島地域で「相談窓口の設置」が2位に繰り上がっている。

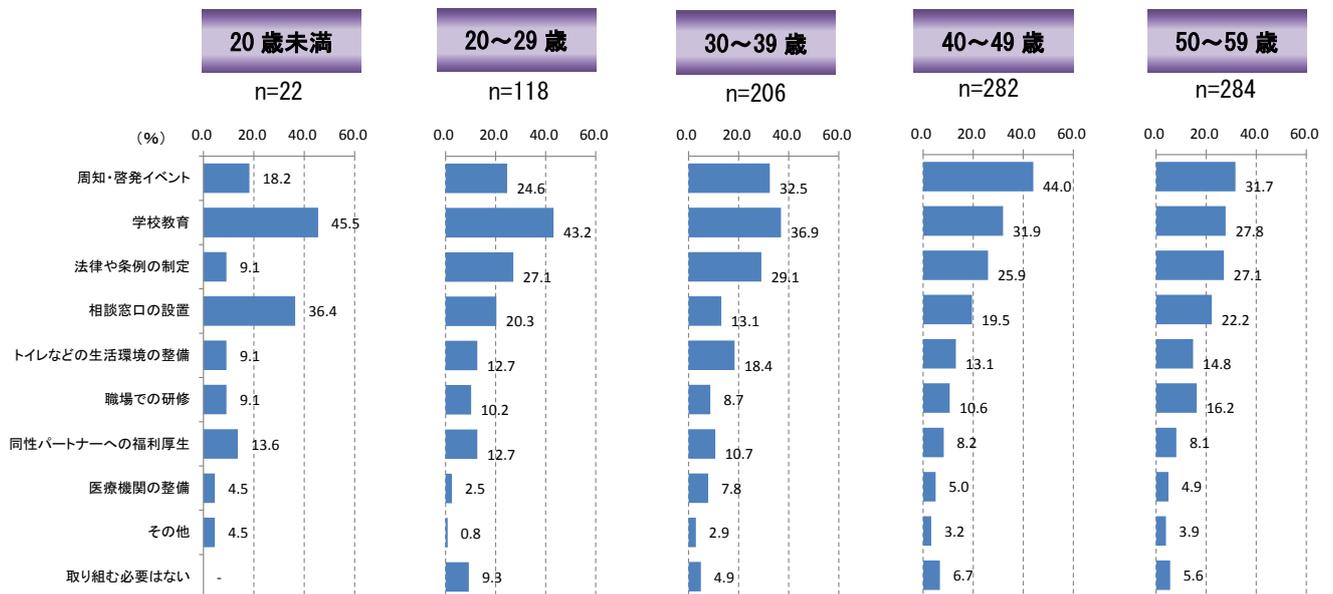
【性別】

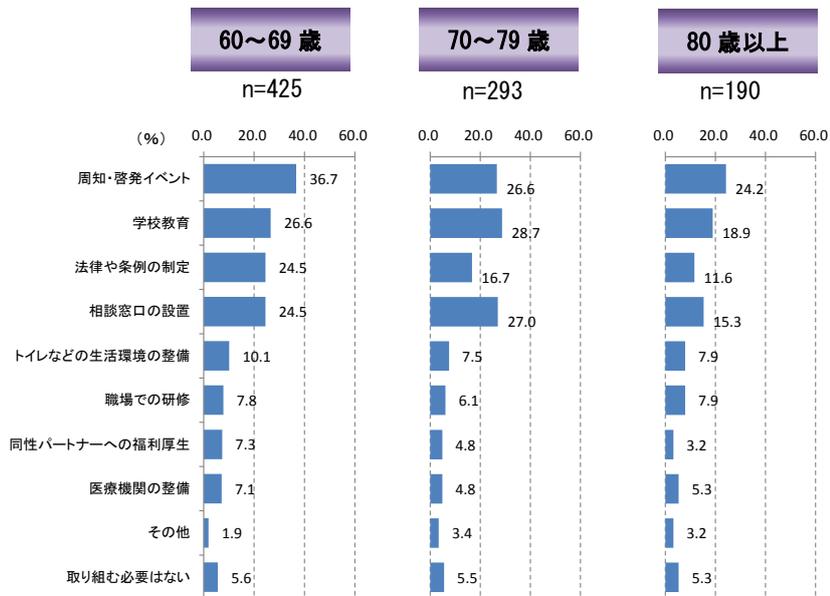


〔性別〕

上位5項目で性別による傾向の相違が見られるのは、男性は「トイレなどの生活環境の整備」に代わり「職場での研修」が5位に入れ替わり、女性は「周知・啓発イベント」1位と「学校教育」2位が入れ替わっている。

【年齢別】





〔年齢別〕

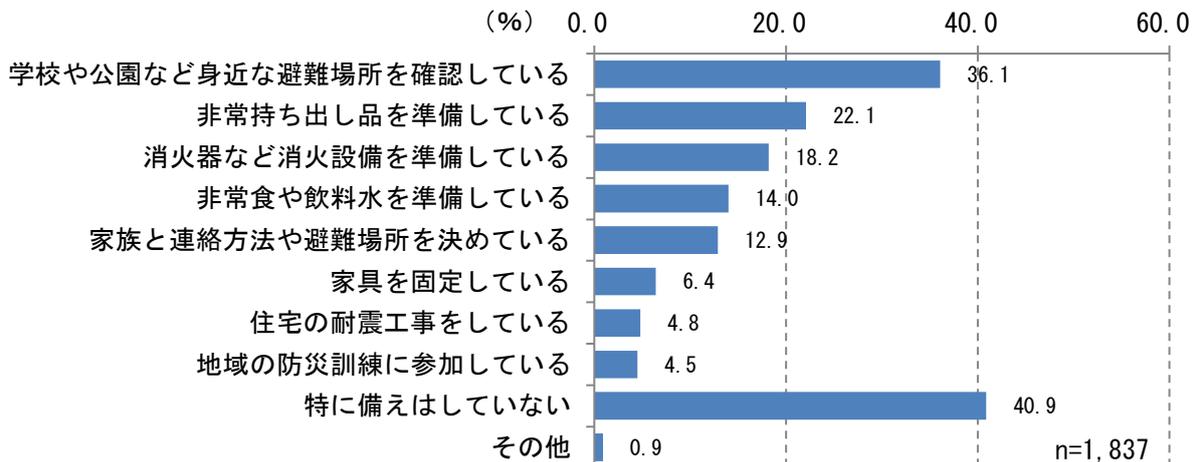
全体傾向の上位5項目と年齢による傾向が異なっている。相違点は20歳未満で「学校教育」が1位、「相談窓口の設置」が2位となり、20歳代は「周知・啓発イベント」が3位となり、30歳代は「周知・啓発イベント」が2位になっている。50歳代は5位の「トイレなどの生活環境の整備」に代わり「職場での研修」が入り、70歳代で「学校教育」が1位、「相談窓口の設置」が2位になっており、80歳以上で「法律や条例の制定」に代わり「相談窓口の設置」が3位となっている。

【災害対策について】

問25 地震や風水害などの自然災害に備えて、あなたの家で行っていることは何ですか。
(〇はいくつでも)

【調査結果（ポイント）】

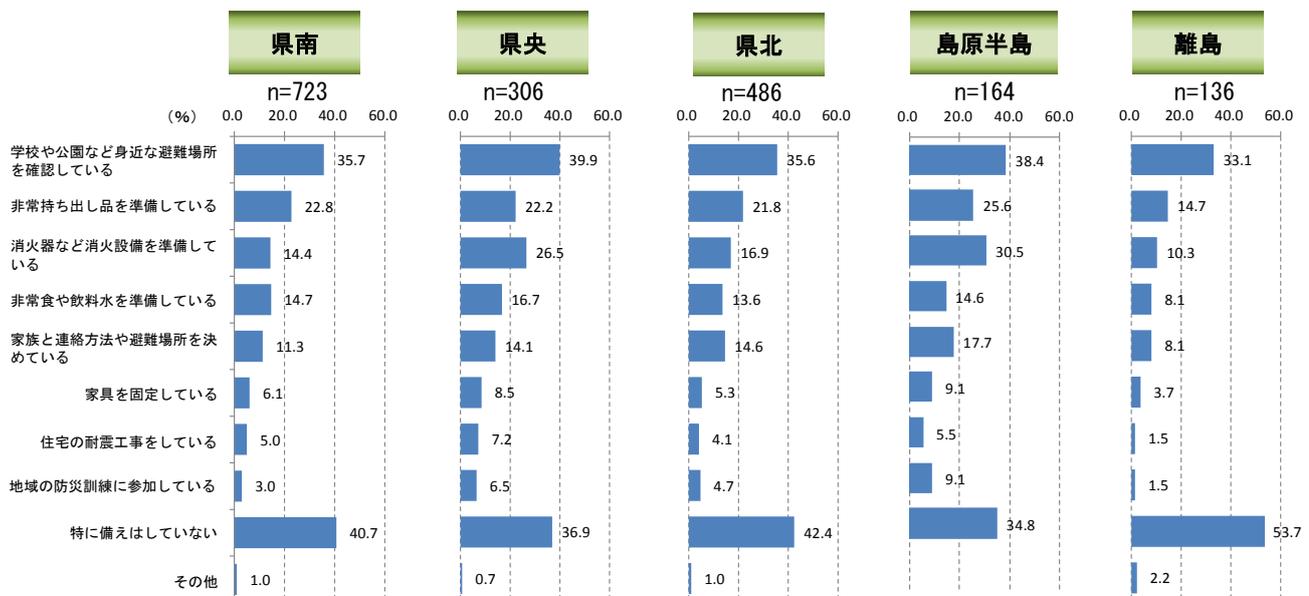
自然災害に対する備えは、「学校や公園など身近な避難場所を確認している」約4割
一方、「特に備えはしていない」が約4割



【全体】

備えとしては、「学校や公園など身近な避難場所を確認している」が36.1%と最も多く、次いで「非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、衣服等）を準備している」が続いている。一方で、自然災害に備えていることは、「特に備えはしていない」が40.9%で最も多かった。

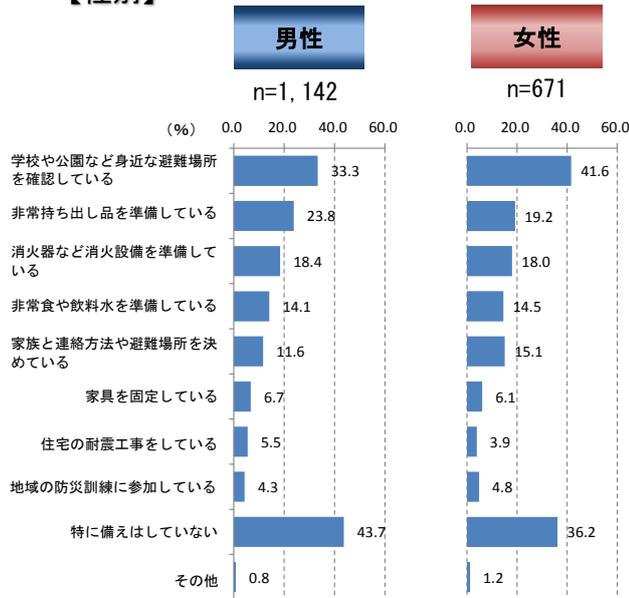
【地域別】



【地域別】

上位5項目で地域別による全体結果と傾向の相違が見られるのは、県南地域で「非常食や飲料水を準備している」が4位、「消火器など消火設備を準備している」が5位と順位が入れ替わり、県央地域・島原半島地域で「消火器など消火設備を準備している」が3位、「非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、衣服等）を準備している」が4位となっている。

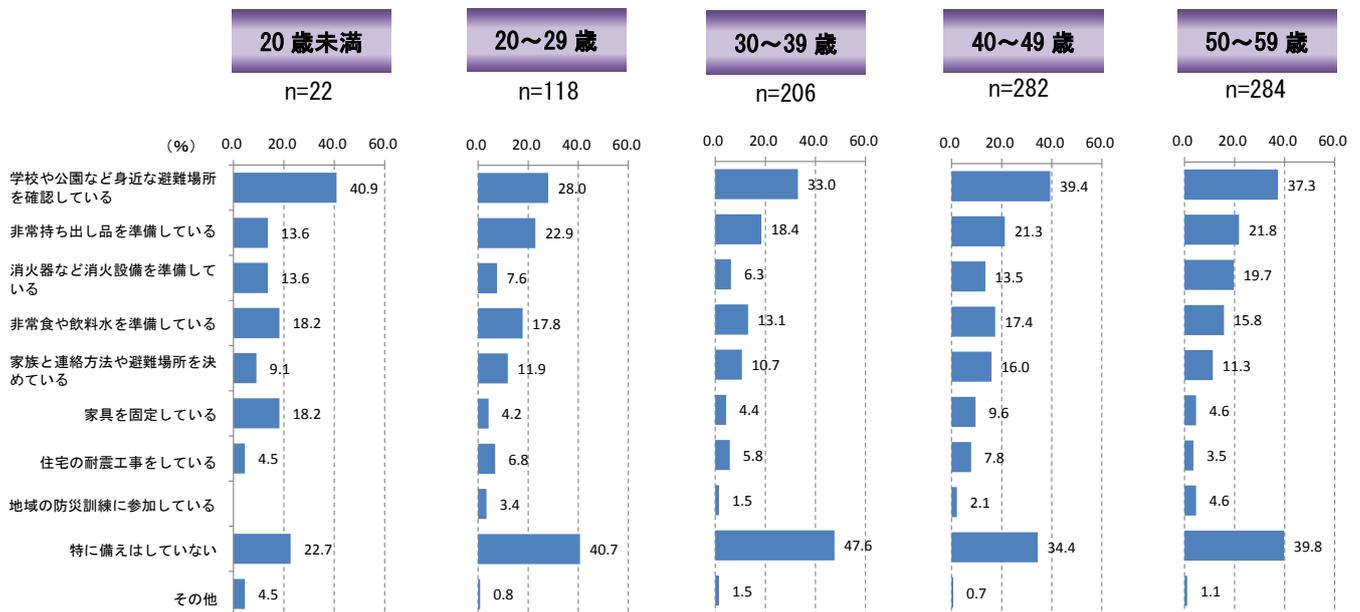
【性別】

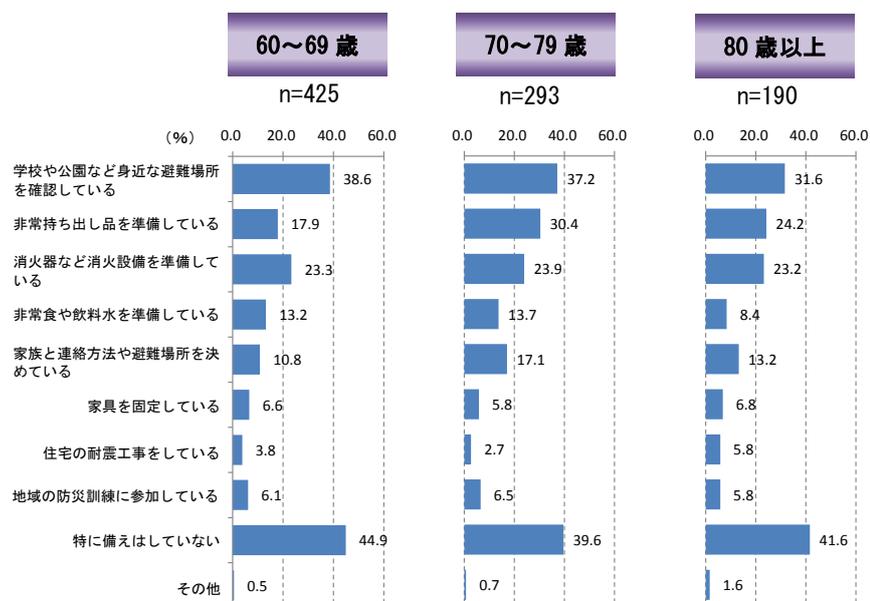


〔性別〕

上位5項目で性別による傾向の相違が見られるのは、女性は「家族と連絡方法や避難場所を決めている」が5位、「非常食や飲料水を準備している」が6位となっている。

【年齢別】





〔年齢別〕

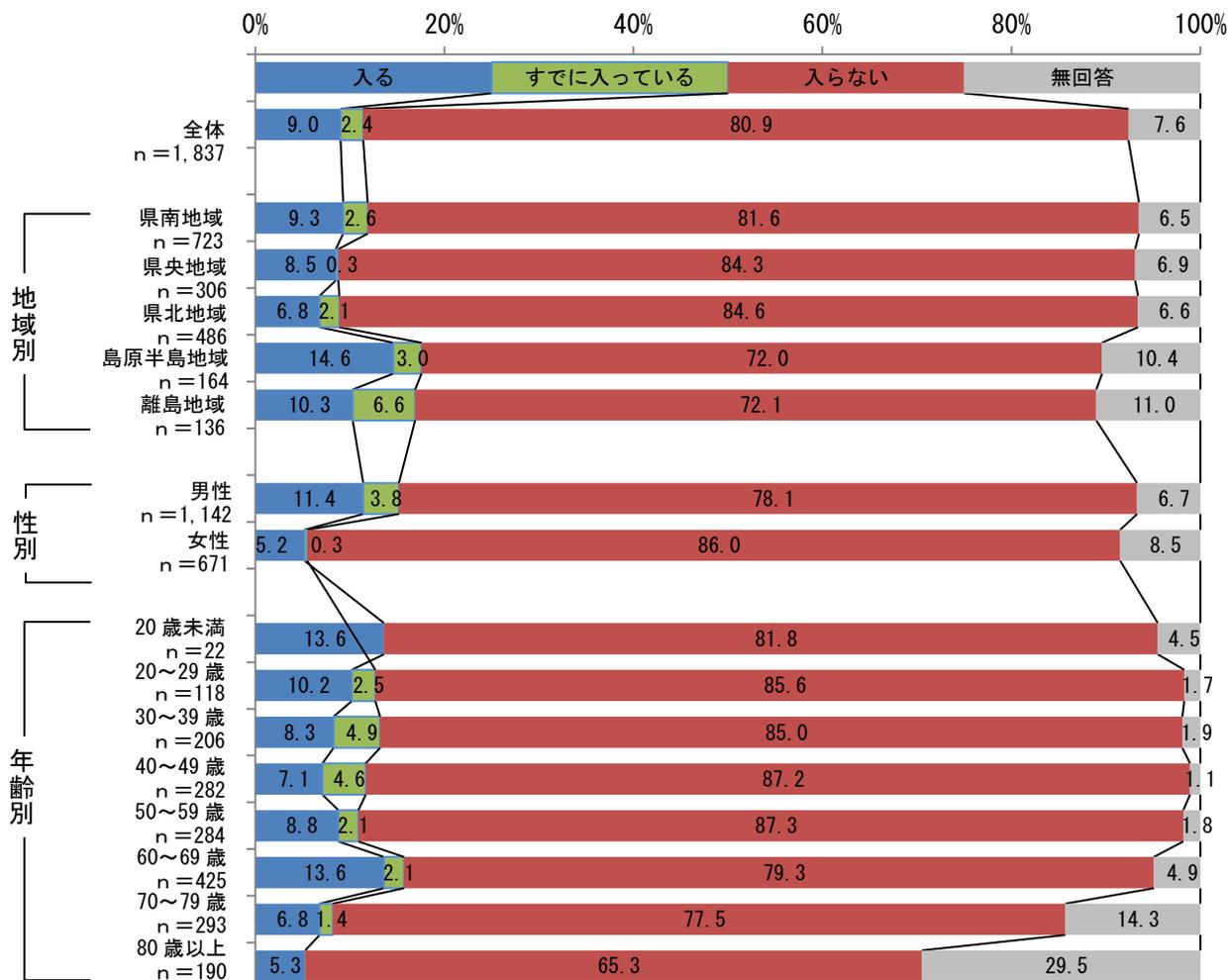
上位5項目での年齢による傾向が異なっている。相違点は20歳未満で「非常食や飲料水を準備している」が3位に繰り上がり、20歳代・30歳代は「消火器など消火設備を準備している」4位と「非常食や飲料水を準備している」5位が4位と6位に入れ替わり、40歳代・80歳以上は「非常食や飲料水を準備している」が4位、「家族と連絡方法や避難場所を決めている」が5位になっている。また、60歳代は「非常持ち出し品（懐中電灯、ラジオ、衣服等）を準備している」が4位「消火器など消火設備を準備している」が3位と入れ替わり、70歳以上で「非常食や飲料水を準備している」が6位「家族と連絡方法や避難場所を決めている」が5位と入れ替わっている。

問 26

あなたは消防団に入ってほしいと言われたらどうしますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

消防団入団の意向は約1割



〔全体〕

消防団について、入団意向（「入る」＋「すでに入っている」）は11.4%である一方で、「入らない」が80.9%となっている。

〔地域別〕

地域別での入団意向の差異が見られ、最も高いのは島原半島地域が17.6%、次いで離島地域・県南地域で続いており、県央地域・県北地域は10%を下回っている。

〔性別〕

性別での違いは明確であり、入団意向は男性が15.2%に対し、女性は5.5%と9.7ポイント男性が高くなっている。

〔年齢別〕

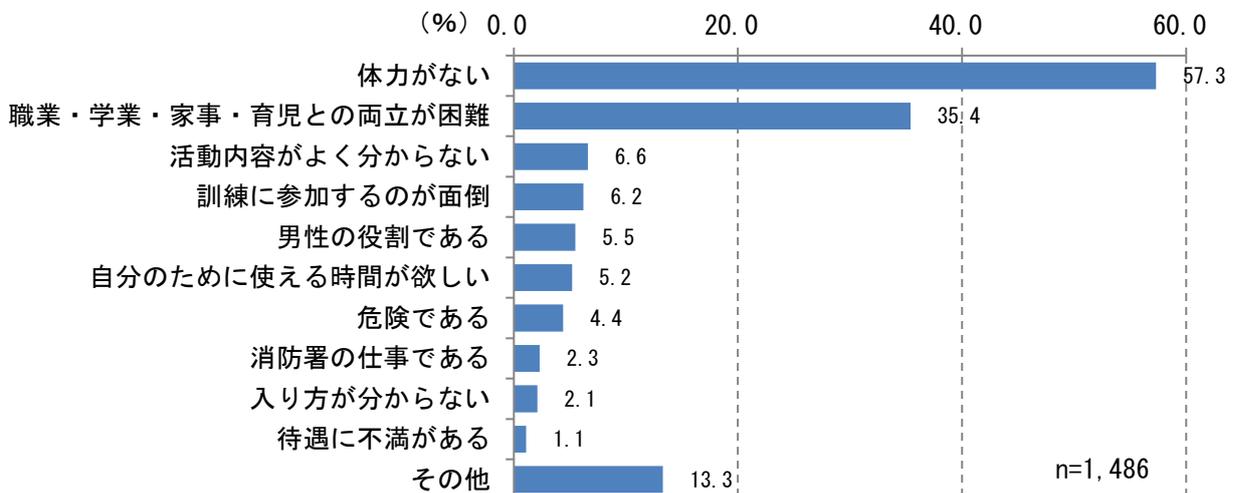
年齢別では、年代の上昇とともに入団意向が低くなる傾向が見られるが、60歳代が15.7%で最も入団意向が高くなっている。

問 27

問 26 で「3. 入らない」を選んだ方はその理由をお聞かせください。
(〇は2つまで)

【調査結果 (ポイント)】

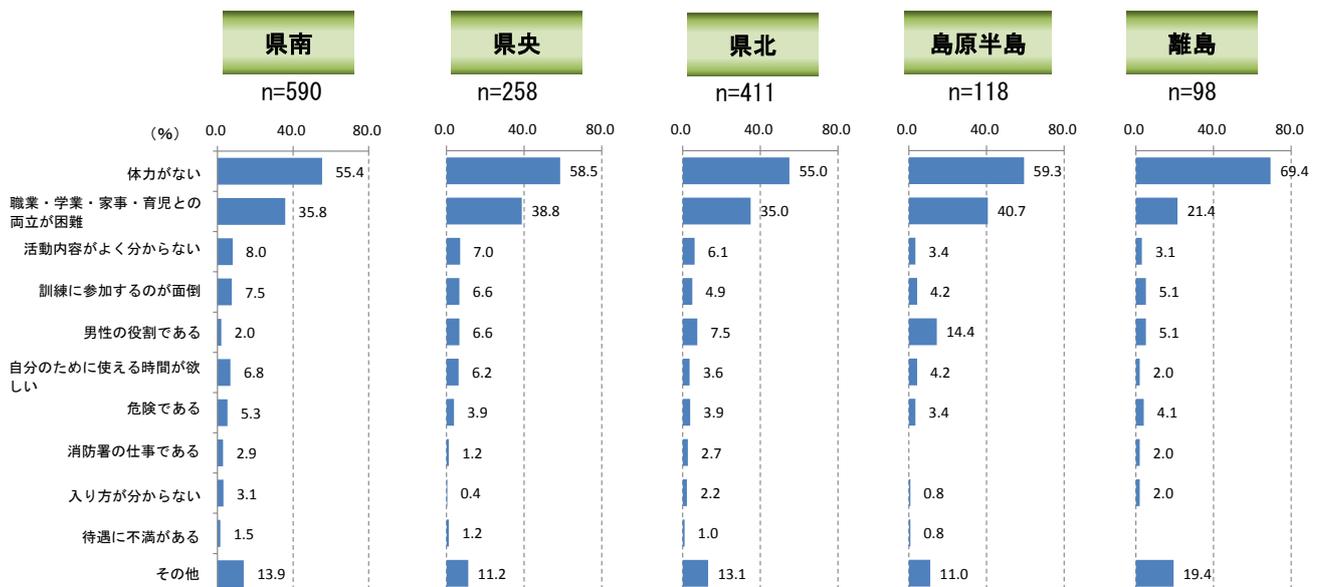
消防団に入らない理由は「体力がない」が約 6 割でトップ



【全体】

消防団に入らない理由は、「体力がない」が 57.3% で最も多く、次いで「職業・学業・家事・育児との両立が困難」「活動内容がよく分からない」となっている。

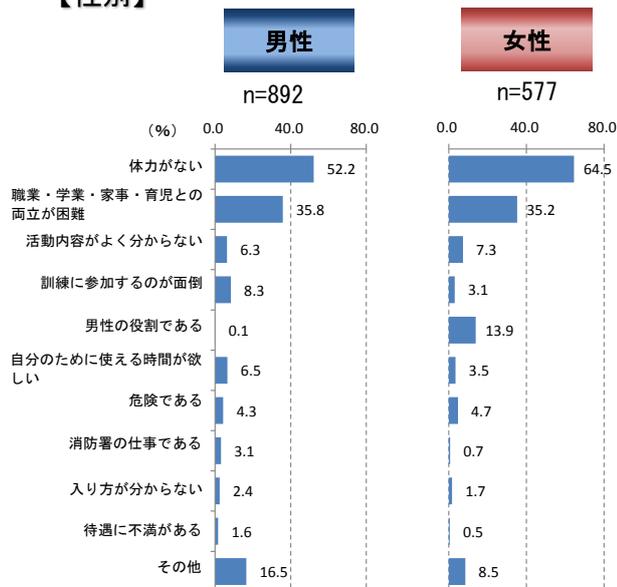
【地域別】



【地域別】

上位 5 項目で全体結果と地域別による傾向の相違が見られるのは、県北地域で「男性の役割である」が 3 位に繰り上がり、島原半島地域で「自分のために使える時間が欲しい」が 4 位、「危険である」が 6 位となり、離島地域で「訓練に参加するのが面倒」「男性の役割である」が同率 3 位に繰り上がっている。

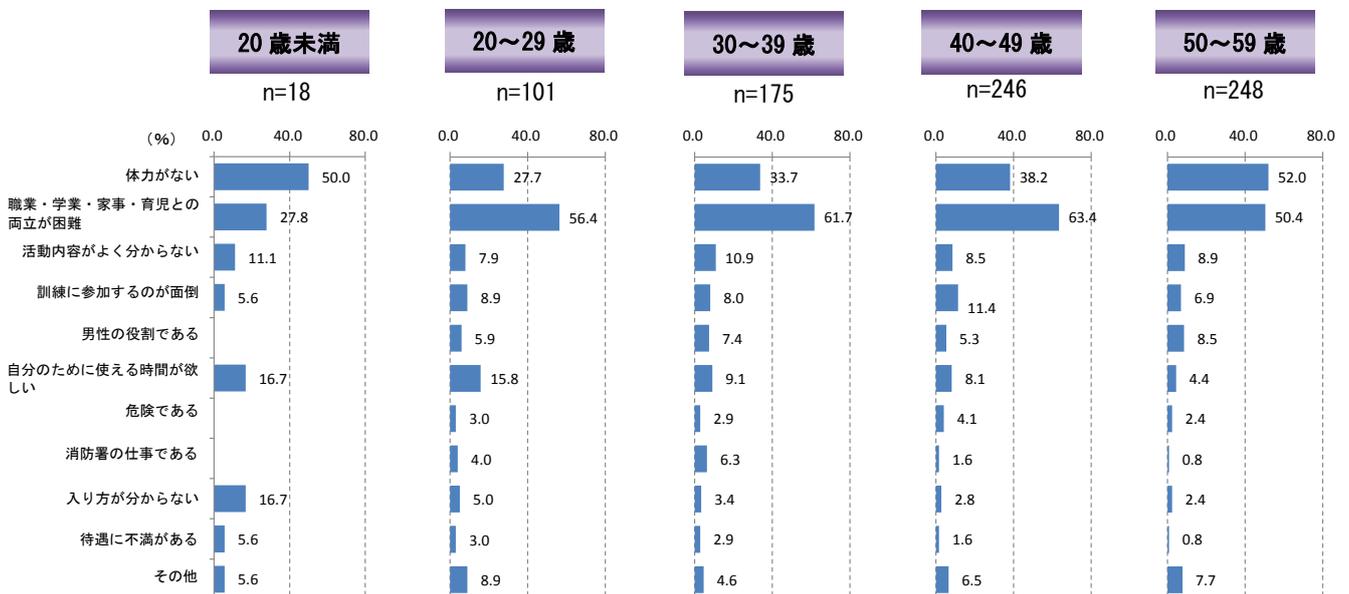
【性別】

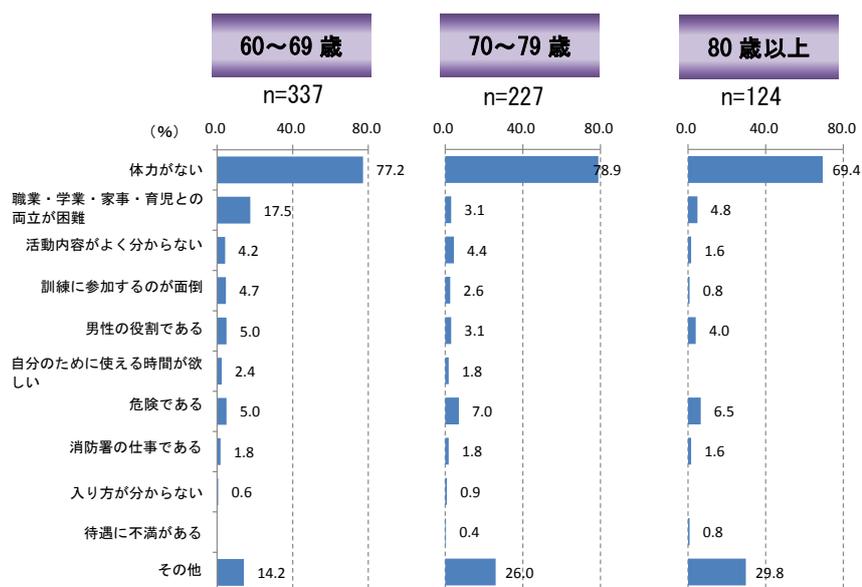


〔性別〕

性別での違いは、男性は「活動内容がよく分からない」と「訓練に参加するのが面倒」の順位が逆転し「自分のために使える時間が欲しい」が4位に繰り上がっている。また、女性は「男性の役割である」が3位に繰り上がっている。

【年齢別】





〔年齢別〕

年齢別では目立つ違いは、20歳代・30歳代・40歳代は「職業・学業・家事・育児との両立が困難」が1位となっているが、その外の年代は「体力がない」が1位となっている。

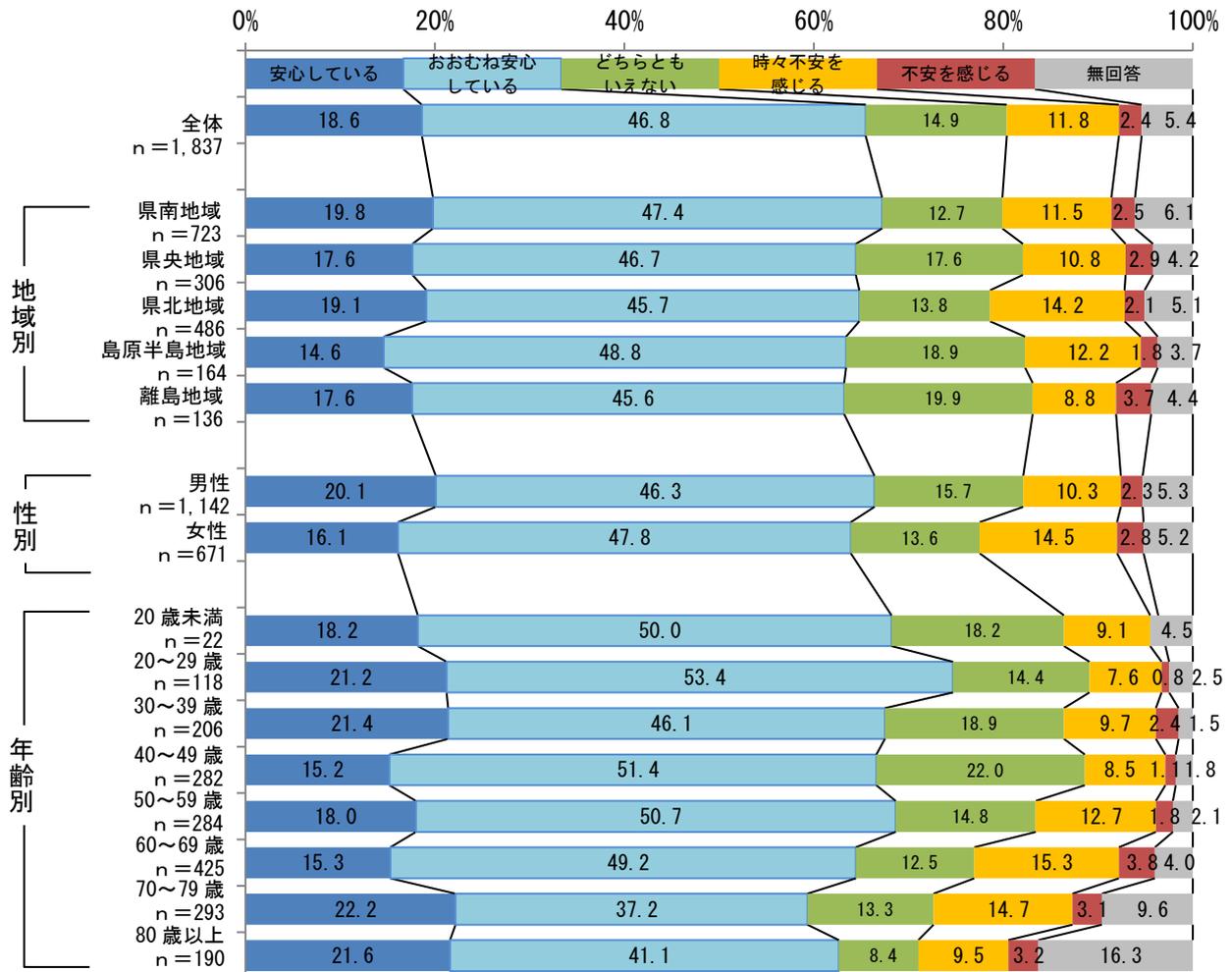
また、相違ではないが60歳以上は「体力がない」が突出した1位となっている。

問 28

あなたは、長崎県における「食品の安全」についてどのように感じていますか。
 (○は1つ) また、不安を感じた方は何に不安を感じますか。(○は2つまで)

【調査結果 (ポイント)】

「食品の安全」に対する安心度は約7割、不安度は約1割
 不安に感じることは、「輸入食品」が約6割でトップ



〔全体〕

食品の安全について、「おおむね安心している」が46.8%で最も多く、安心度（「安心している」+「おおむね安心している」）は65.4%であった。

〔地域別〕

地域別での傾向の相違は見られず、安心度は県南地域が67.2%で最も高く、次いで県北地域・県央地域と続いている。

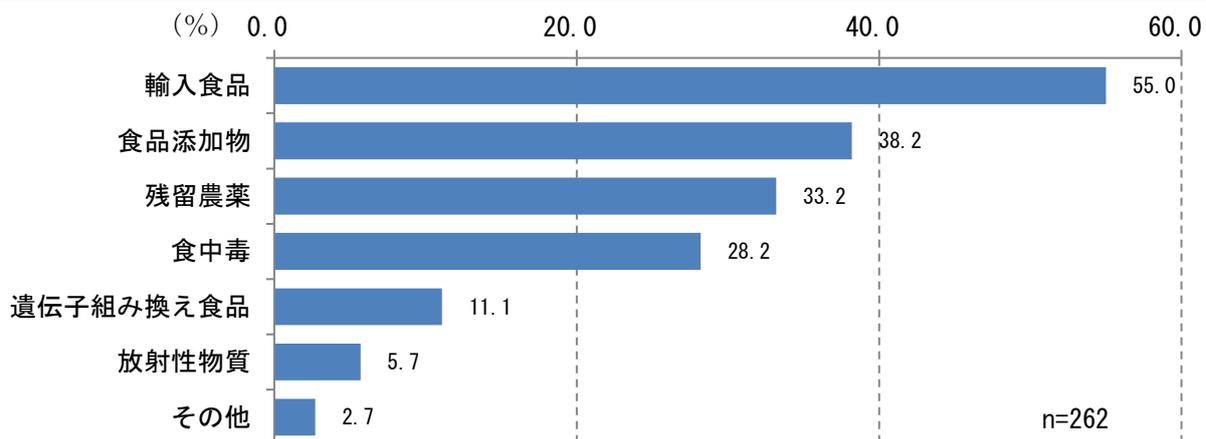
〔性別〕

性別でも傾向の相違は見られないが、女性は不安度（「時々不安を感じる」+「不安を感じる」）が17.3%と男性よりも4.7ポイント高くなっている。

〔年齢別〕

年齢別では、60歳以上で傾向の相違が見られ、「時々不安を感じる」が60歳代で2位、70歳以上で3位の項目となり、不安度が60歳代で19.1%、70歳代で17.8%と高くなっている。

【何に不安を感じますか】



〔全体〕

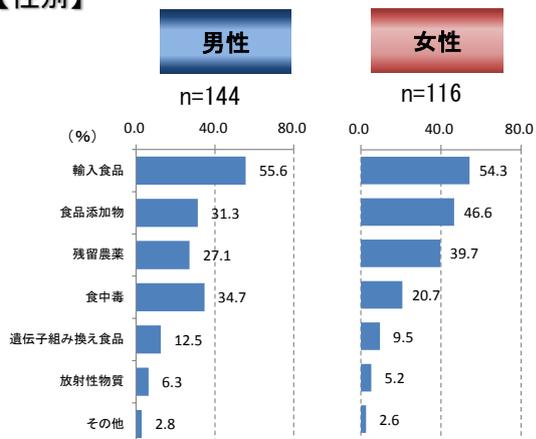
食品に不安を感じていることは、「輸入食品」が55.0%で最も多く、次いで「食品添加物」「残留農薬」と続いている。

※地域別・年代別は母数が小さいため参考として掲載のみとする。

【地域別】



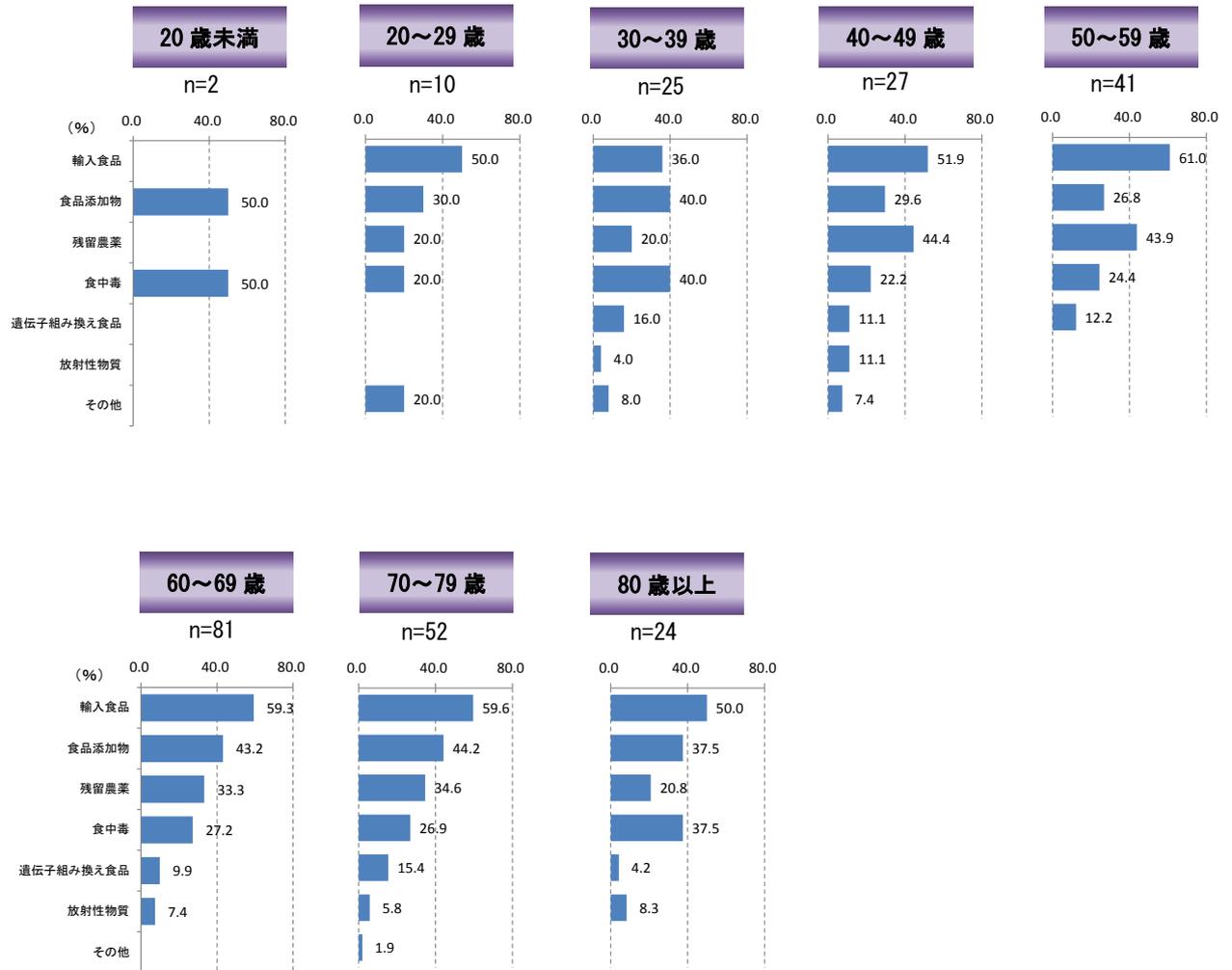
【性別】



〔性別〕

全体との相違は、男性は「食中毒」が2位に上がっている。女性は全体と傾向の相違はないが、2位「食品添加物」と3位「残留農薬」は男性よりも10ポイント以上高くなっている。

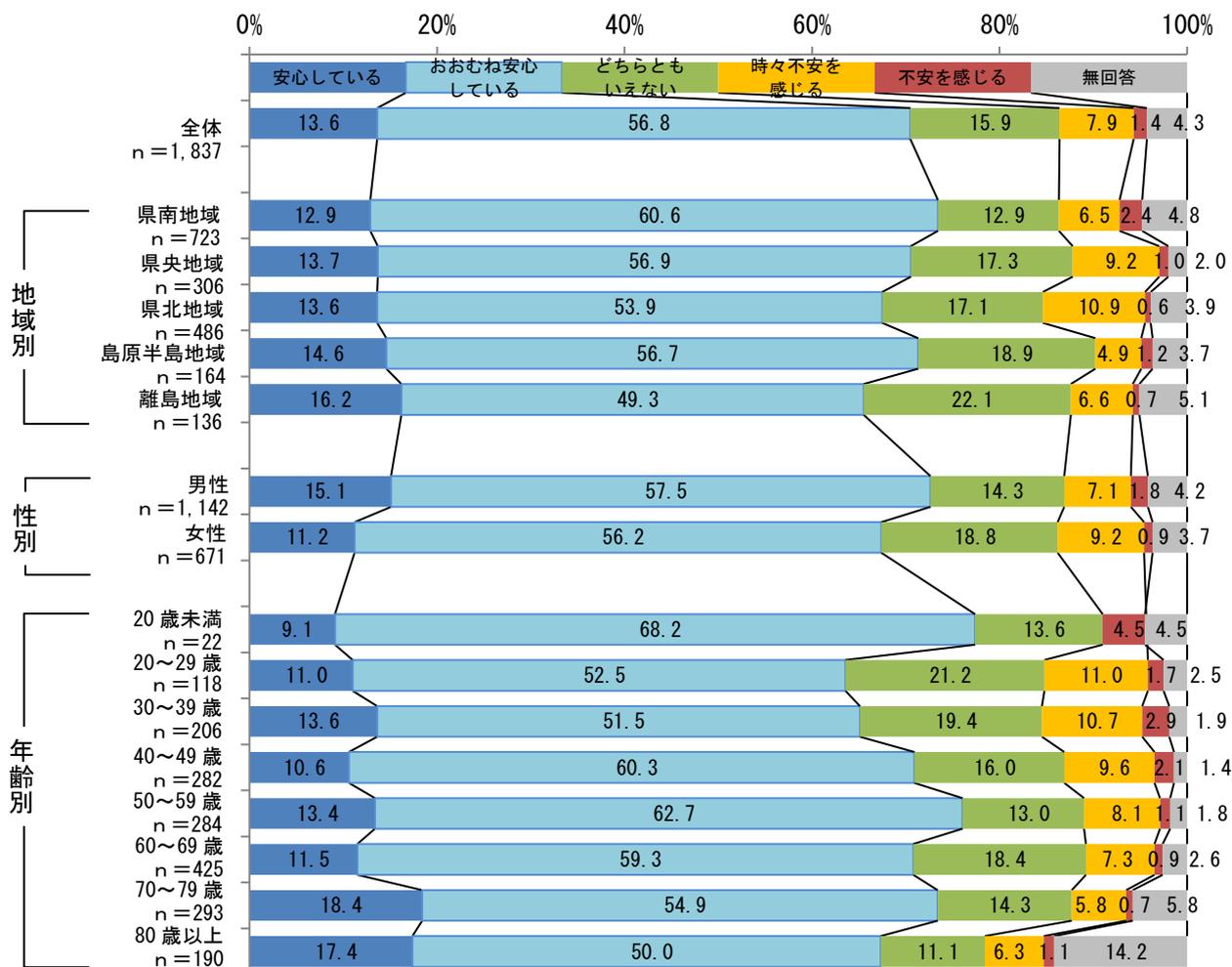
【年齢別】



あなたは、現在の長崎県の治安についてどのように感じていますか。(〇は1つ)

【調査結果 (ポイント)】

長崎県の治安に対する安心度は約7割



〔全体〕

長崎県の治安について、「おおむね安心している」が56.8%で最も多く、安心度（「安心している」+「おおむね安心している」）は70.4%であった。

〔地域別〕

地域別での傾向の相違は見られず、安心度は県南地域が73.5%で最も高く、次いで島原半島地域・県央地域と続いている。

〔性別〕

性別でも傾向の相違は見られないが、女性は不安度（「時々不安を感じる」+「不安を感じる」）が10.1%と男性よりもやや高くなっている。

〔年齢別〕

年齢別で全体との相違は見られず、安心度は20歳未満が77.3%で最も高く、次いで50歳代、70歳代と続いている。

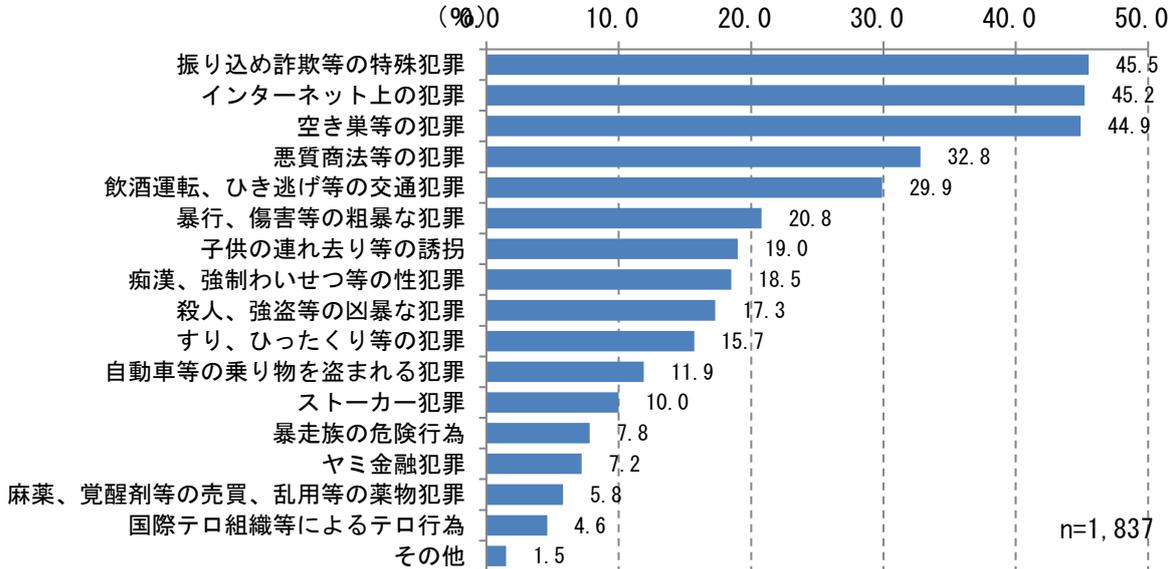
一方、不安度が最も高いのは30歳代の13.6%となっている。

問 30

あなた自身や身近な人が被害にあうかもしれないと不安に思う犯罪は何ですか。
(〇はいくつでも)

【調査結果 (ポイント)】

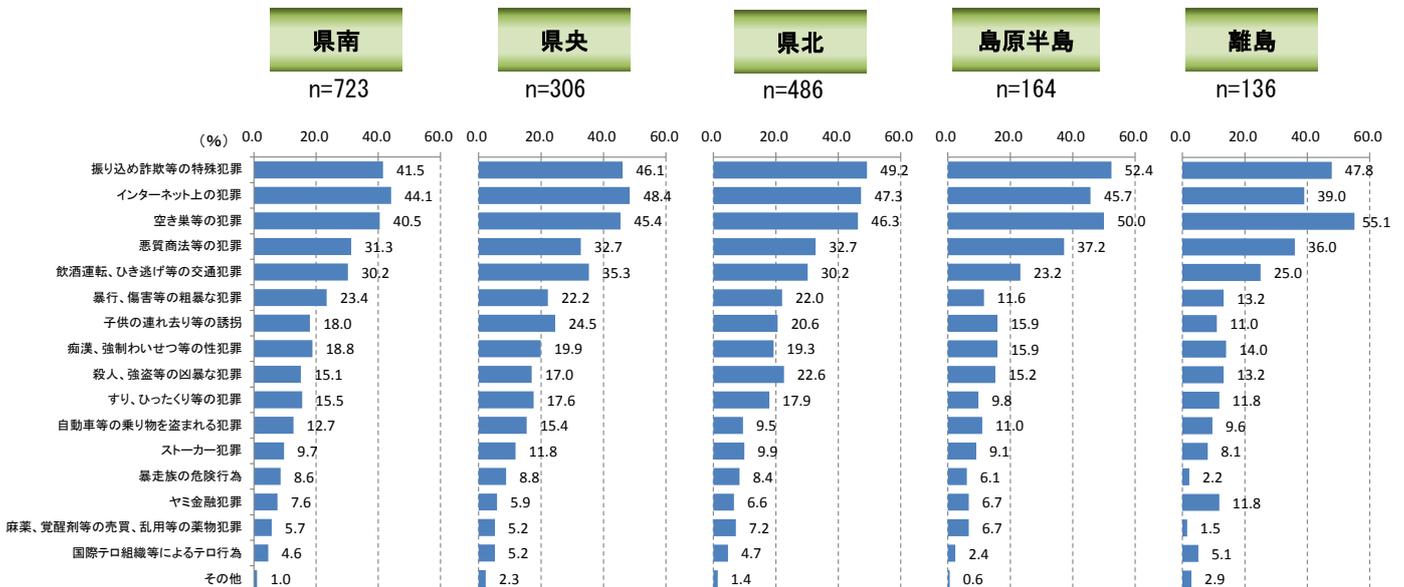
身近で不安に思う犯罪は「振り込め詐欺等の特殊犯罪」が約5割でトップ



【全体】

不安に思う犯罪は、「振り込め詐欺等の特殊犯罪」が45.5%で最も多く、次いで「インターネット上の犯罪」「空き巣等の犯罪」と続いている。

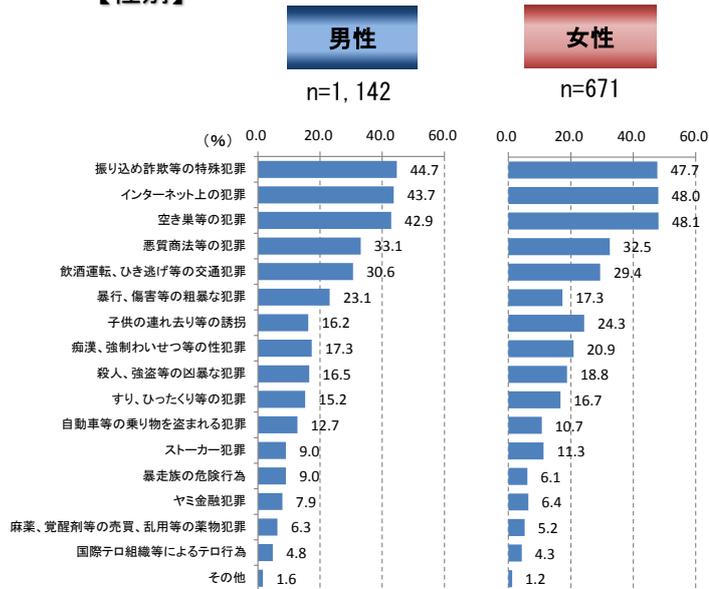
【地域別】



【地域別】

全体結果と比べると、県南地域・県央地域で「インターネット上の犯罪」が1位に繰り上がり、離島地域で「空き巣等の犯罪」が1位に繰り上がっている。

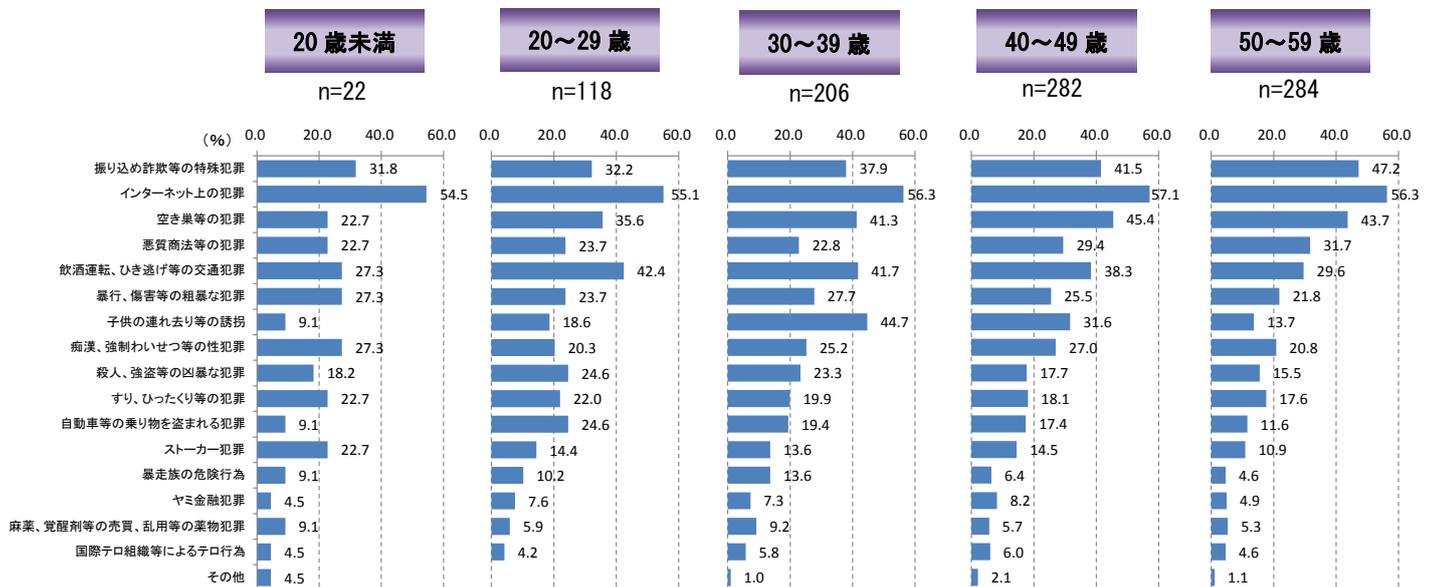
【性別】

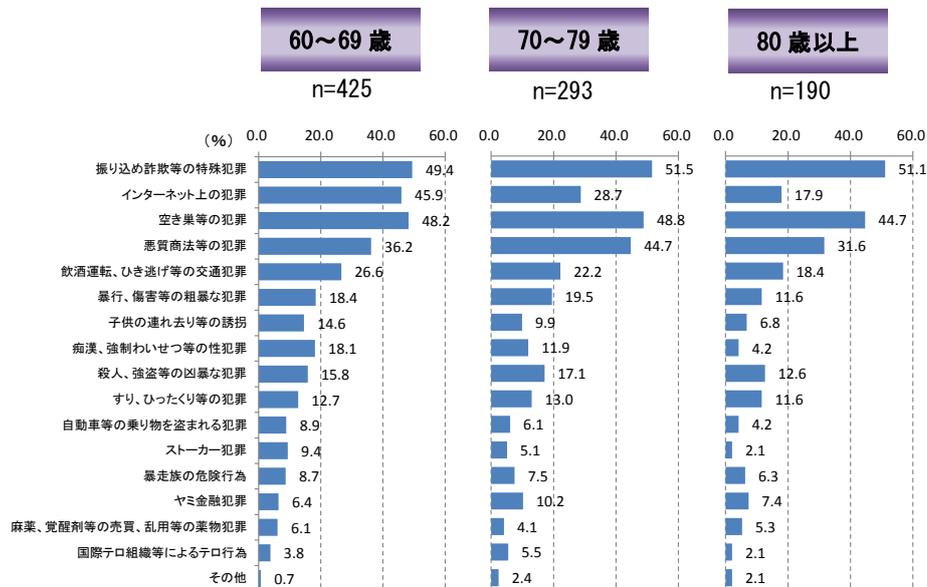


〔性別〕

性別で傾向の大きな相違は見られない。

【年齢別】





〔年齢別〕

全体結果と比べると、20歳未満・20歳～50歳代の各年代では「インターネット上の犯罪」が突出して1位に入っている。

一方、60歳～80歳代の各年代では、「インターネット上の犯罪」の順位が下がり、代わりに「空き巣等の犯罪」及び「悪質商法等の犯罪」の順位が繰り上がっている。